

パレットの日に寄せて

By the numbers of JPR pallets

数字でみる JPR パレット



11月12日は 「パレットの日」です。

パレットというと、絵の具を出すパレットをイメージする方が多いかもしれませんが、「パレットの日」のパレットは物流機器のことを指しています。

パレットは実は非常に身近で、私たちの暮らしを支えてくれている荷台です。

パレットを使うと、個別の荷物をひとまとめに（物流用語でいうと「ユニット化」）でき、フォークリフトの爪を入れるための差し込み口がついていますので、荷物に傷もつかなくなります。

つまり、物流現場でフォークリフトを活用した機械荷役を行うには欠かせない存在なのです。

そんな **パレットは日本国内だけでも5億枚ほど流通している** といわれ、

工場で製造されたものが、卸売拠点、小売拠点と流通し、

その後パレットから荷物は解かれ、店頭で商品が陳列され、私たちの手元にやってきます。

スーパーやコンビニで売られている商品のほとんどは、

一度はパレットに積載されているのです。

さて、では何故11月12日はパレットの日なのでしょう。

物流の効率化には「標準化」が欠かせません。

そのため、パレットのサイズにも標準サイズというものがあります。

JIS規格ならびにISO規格で定まっているパレットのサイズは、

11型(1,100mm×1,100mm)・12型(1,000mm×1,200mm)であり、

11型・12型の普及推進を目的に11月12日が「パレットの日」になりました。

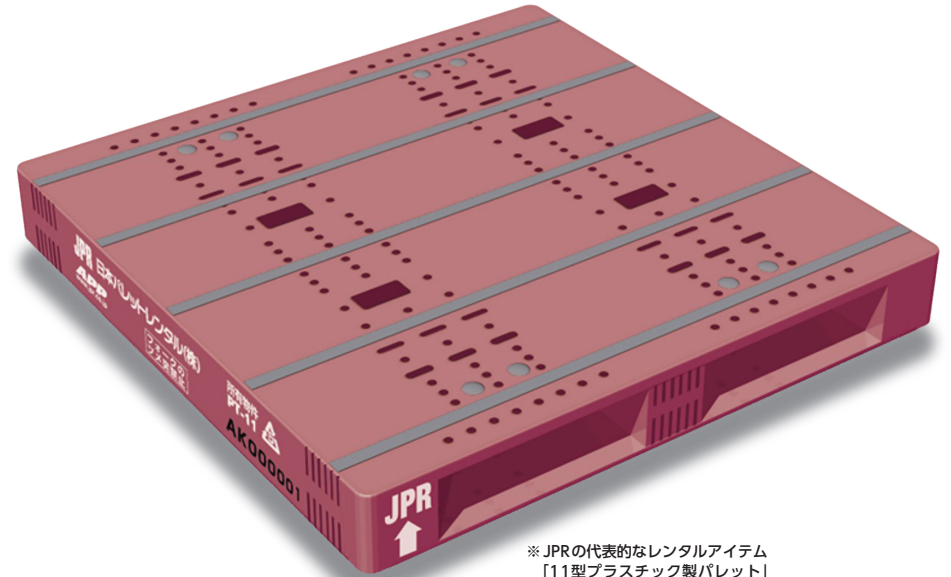
そんなパレットを企業にレンタルすることを生業とし、

標準サイズである11型のレンタルパレットを

日本一保有しているJPRのパレットはどのような規模感で運用されているのか。

数字を切り口に、皆さまにもっとパレットを身近に感じていただけるよう、

ご紹介して参ります。



※ JPRの代表的なレンタルアイテム
「11型プラスチック製パレット」



JPRパレットを 高ねてみたら

22年度末時点で

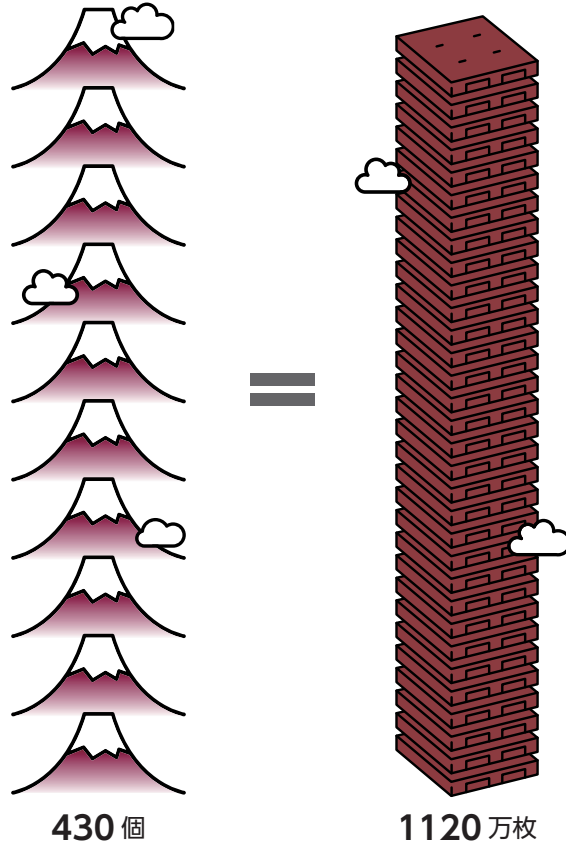
JPRが保有するパレットの枚数は**11,276,743枚**です。

そしてパレット1枚の高さは**144mm**。

つまり、保有パレットを高ねてみると、

1,623,850.992mになります。

富士山に換算してみると**約430個分**の高さです。



JPRパレットを 並べてみたら

JPRが保有するパレットのほとんどは、

標準サイズである11型(1,100mm×1,100mm)なので、

1枚あたりの**表面積は1.21㎡**です。

22年度末時点でのパレット保有枚数は

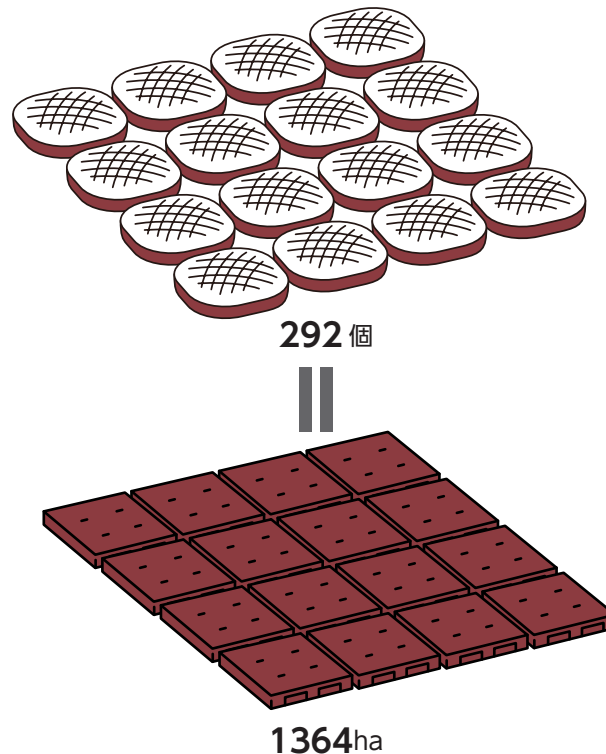
11,276,743枚ですから保有パレットを並べてみると、

約1,364.5haになります。

東京ドームに換算すると**292個ぶん**です。

そして、阪神甲子園球場に換算すると

354個ぶんになります。



JPRパレットの 枚数の伸びを見てみたら

創業当時は木製パレットのみの取扱いでしたが、

**2000年にプラスチック製パレットの
レンタル**を開始しました。

日本は衛生観念が強い国であることから

プラスチック製(洗える)のニーズが加工食品業界など

特定業界において高いのですが、

欧州では木製が主流であったりします。

JPRの保有パレットでは、2010年3月末時点で

**木製の数をプラスチック製が
逆転**しました。

2000年度末 5,254,644枚

木製パレット

2004年度末 6,045,584枚

2008年度末 7,054,256枚

2012年度末 8,814,243枚

2016年度末 9,201,142枚

2020年度末 11,050,365枚

2022年度末 11,274,043枚

プラスチック製パレット

JPRパレットの 年間出荷枚数の伸びを見てみたら

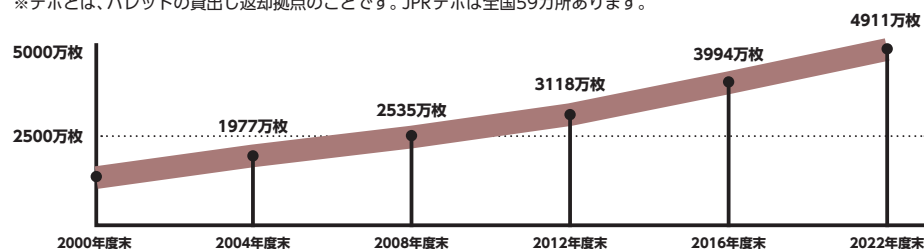
直近の22年度、JPRは保有するパレットをデポ(※)から

年間のべ約4,911万枚出荷しています。パレットの保有枚数は約1,128万枚ですから、**年間で1枚のパレットは約4.3回転**しているということになります。

イメージでいうと、**家に帰って来るのは年間で4回**ほど。

あとはずっと外で動き回っているスーパー働き者なパレットです。

※デポとは、パレットの貸出し返却拠点のことです。JPRデポは全国59カ所あります。



JPRをご利用いただいている お客様の数を見てみたら

JPRのパレットは、多くの**お客様の大切な商品**を運んでいます。

とりわけ得意な領域は、**加工食品・飲料・日用品**。私たちの生活に欠かせないものばかりです。

JPRレンタルパレットをご利用されているお客様は、**約2200法人**いらっしゃいます。

そしてそのお客様が登録されているパレットが行き着く先の拠点数は**約5000**です。

ちなみに、レンタル以外にも、実は様々な物流機器の販売もしているJPR。

販売のご利用も含めるとお取引企業数はグッと増えます。



2200 法人



5000 拠点



1289 台



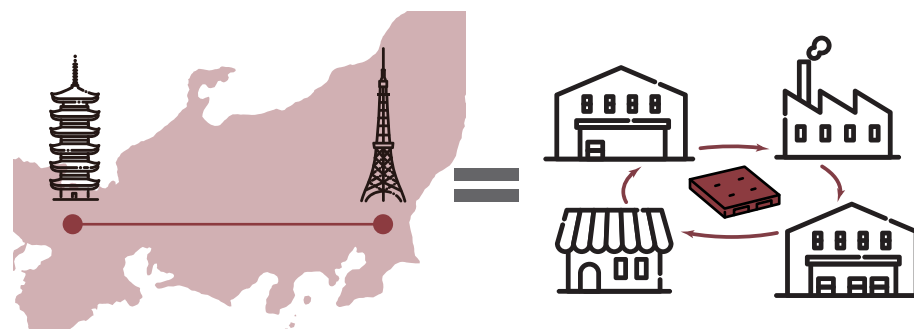
226 社

JPRパレット1枚が 一度の出荷で移動する距離を見てみたら

JPRのパレットの多くは、お客様の製品を載せて出荷に使われ日本全国さまざまな拠点を巡っていきます。

1枚のパレットがJPRデポを出て、お客様の製品を載せて働き、またデポに戻ってくる。

その一度の出荷での平均的な移動距離は505.22kmです。



JPRパレットのために 一日何台のトラックが走っているか調べてみたら

JPRは、パレットの納品、回収のために平日毎日平均して**1289台**のトラックを手配しています。

全国の**パートナー運送会社226社**にお世話になっています。

もちろん、お客様がご自身で車を手配され、借りにもしくは返しにいらっしゃるケースもあります。

そして、商品も載せて今まさに目的地に向けて移動しているパレットもいるでしょう。

ちなみに、**日本全国では136万台**のトラックが営業用として登録されています。

終わりに

数字を切り口に、JPRパレットのボリューム感や、運用規模をお伝えしました。

普段生活している限りではパレットの存在を感じることはない(ドラマの中で銃撃戦のシーンや、良からめ取引をしているシーンなどではパレットがよく映っていますが)と思いますが、間違いなく私たちの生活を支えてくれているのがパレットです。

昨今、「物流2024年問題」が多くのメディアで報道されていますが、24年問題とはドライバーの時間外労働規制に伴い発生する諸問題の総称のことです。

「輸送力の低下が懸念される」などと言いますが、とても簡単に言い換えると、「新鮮な野菜や果物を一番美味しいタイミングで食べられなくなるかもね」ということです。

なぜなら、ドライバーはいま、運転以外の荷役(機械荷役ではなく、ドライバーが手で荷役する)や待機(納品先で待機する時間)に多くの時間を費やさざるを得ないからです。この問題を解決する一助になるのがパレットです。

ドライバーを手荷役という重労働から解放し、機械荷役を実現します。サッと納品できますから、後続のドライバーを待たせることもありません。誰かが、無理をせずに、みんなが新鮮な野菜を食べることが出来たらハッピーですよ。

JPRはそんな「当たり前の幸せ」をパレットを通して実現したいと思っている会社です。



11月12日のパレットの日に、少しでもパレットのことを思っていただけで幸いです。

JPR

日本パレットレンタル株式会社

By the numbers of JPR pallets 数字で見る JPR のパレット

2023年11月10日

日本パレットレンタル株式会社 広報部 制作

お問い合わせ：pr@jpr.co.jp

*本資料の数値は、2023年11月10日時点の数値です